

設計計画Ⅳ

消滅する市街地の リニューアルスケープ

東京都調布市をフィールドに、学生が現地を実際に探索しながら課題を発見し、提案を行う建築学科4年前期の授業です。通常、建築の授業ではあらかじめ決められた土地に提案を行うものが多い中、この授業では学生が実際にフィールドワークやインタビュー等を実施し、提案エリアや内容を設定する自由度の高いものとなっています。

学生の視点による提案は都市に眠る可能性を発掘し、行政や住民の想像を超えた新たなまちの風景を描き出します。

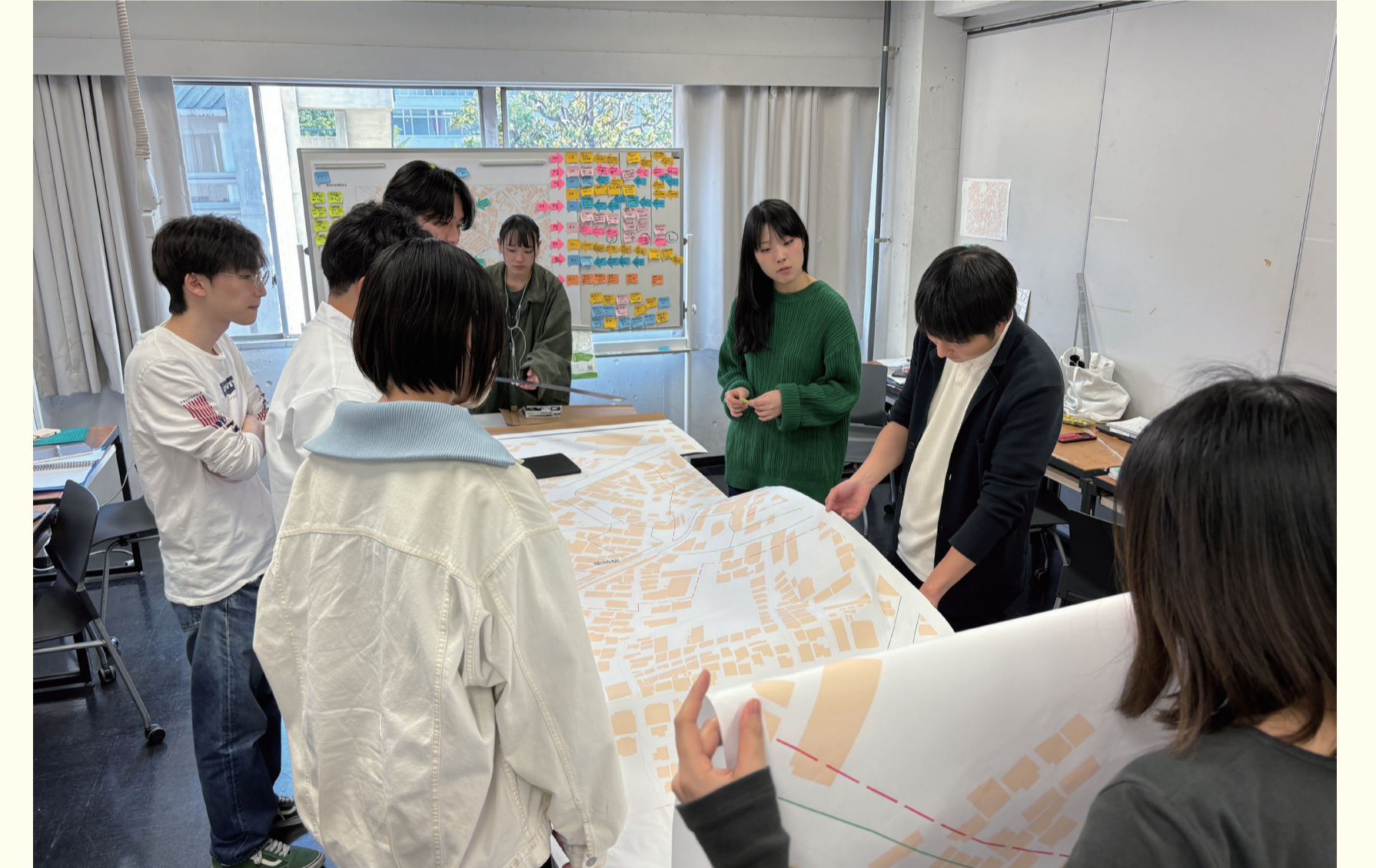
- 各自がフィールドワーク、都市計画の整理、まちに不足する機能やスペースの検討を行う
- 全員でエリア全体の提案を可視化しディスカッション、同じエリア内で10人が異なるテーマを設定し、エリア再生シナリオの方針を固める
- 10人の提案から見えた地域の魅力や独自性をプレゼンテーションにまとめる
- 調布市職員へプレゼンテーション、学生の自由なアイデアを活かした提案に対し現実的な都市計画を踏まえたフィードバックを受ける



駅周辺から出発し、商店街・緑化・交通など各々の関心でフィールドワークを進める様子



柴崎駅商店会長が経営する神金自転車商会を訪問、お話を伺う様子



それぞれ自由に提案エリアを決め、全員で作る敷地模型の範囲を決めている様子

連携先

東京都調布市まちづくり推進課

実施期間

2024年4月～7月

担当教員

國廣純子
高橋卓(建築)

参加学生の学科

建築学科

参加学生人数

10人